

PRESS RELEASE

泉屋博古館東京

SEN-OKU
HAKUKOKAN
MUSEUM TOKYO

企画展 ライトアップ木島櫻谷Ⅲ — おうこくの色をさがしに 併設四季連作屏風



2026.4.25 (sat) -7.5(sun)

SPOTLIGHT ON KONOSHIMA OKOKU Ⅲ

In Search of Color in Okoku

Accompanied by the Series Folding Screens of the Four Seasons

同時開催 「住友財団助成による文化財修復成果—文化財よ、永遠に2026」

《展覧会概要》

明治後期から昭和初期まで京都画壇で活躍した木島櫻谷（1877-1938）は、日本画における「近代的表現」を模索する中で、京都派伝統の「写生」技術を活かしながら、着色や墨の発色に工夫をこらしました。櫻谷が生きた時代は20世紀の美術の変革期を挟んでいますから、自然主義や印象主義に共鳴した様式や画題、そして色彩革命に反応した新しい岩絵具への感化などが、櫻谷の作品にも見いだせます。本展では、櫻谷の使用した絵具と色彩表現をライトアップします。時代に応じて色彩の発色の仕方や絵具の質や扱い方の変化を探っていきます。

大正中期に大阪茶臼山の住友本邸の大広間を飾った「四季連作屏風」を含め、写生帖や本領の花鳥動物画や人物画などを特集して展示します。

また同時開催として、公益財団法人住友財団が推進してきた文化財維持・修復事業助成により蘇った作品から、南北朝時代の禅僧の書跡や室町時代の漆工品、さらには櫻谷の写生帖を展示し、文化財修復の最前線を紹介します。

《基本情報》

展覧会名 企画展 ライトアップ木島櫻谷Ⅲ—おうこくの色をさがしに 併設四季連作屏風
同時開催「住友財団助成による文化財修復成果—文化財よ、永遠に2026」

会 期 2026年4月25日(土)～7月5日(日) *会期中展示替えあり

前期：4月25日（土）～5月31日（日）、後期：6月2日（火）～7月5日（日）

開館時間 11:00～18:00 ※金曜日は19:00まで開館 ※入館は閉館の30分前まで

休 館 日 月曜日、5/7（木）（5/4・5・6は開館）

入 館 料 一般1,200円(1,000円)、学生600円(500円)、18歳以下無料

※企画展・同時開催展の両方をご覧いただけます

※学生・18歳以下の場合は証明書のご呈示が必要です

※20名様以上の団体は()内の割引料金

※障がい者手帳等ご呈示の方はご本人および同伴者1名まで無料

※会期中の2回目入館は半券提示にて半額

会 場 泉屋博古館東京

〒106-0032 東京都港区六本木1-5-1

<https://sen-oku.or.jp/tokyo/>

TEL:050-5541-8600(ハローダイヤル)

主 催 【ライトアップ木島櫻谷Ⅲ】公益財団法人泉屋博古館、毎日新聞社

【文化財よ、永遠に2026】公益財団法人泉屋博古館、公益財団法人住友財団

《展示構成》（予定）

§1：配色の妙。櫻谷の色彩表現に迫る。

木島櫻谷が描く作品の色に注目し、その構成を分析してみると、櫻谷がどういったことを意識しながら配色を考え、彩色をしていたのかが見えてくる。たとえば櫻谷はあえて色数を絞り、同系統の色で構成した画面に、わずかにアクセントとなる色を施すことで主題を引き立て、均衡のとれた画面に仕上げている。本章では櫻谷が駆使した色彩表現を、トピックごとに分けて紹介する。

多彩な色の組み合わせ



木島櫻谷《剣の舞》
明治34年（1901）
櫻谷文庫

同系色の緻密なグラデーション



木島櫻谷《幽渓秋色》大正時代（20世紀）
泉屋博古館東京



木島櫻谷《葡萄栗鼠》大正時代
泉屋博古館東京

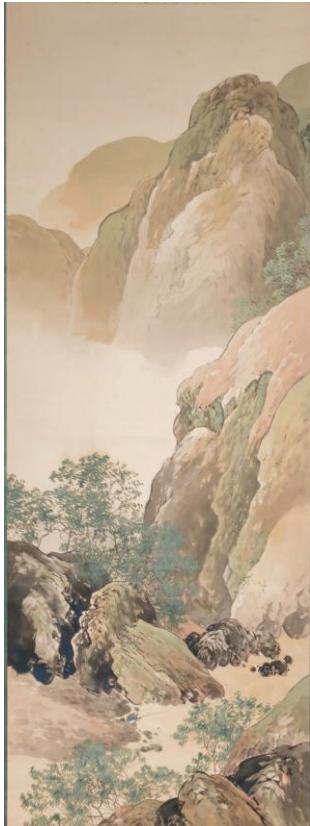


木島櫻谷《厩》
昭和6年（1931）
櫻谷文庫

《展示構成》（予定）

§1：配色の妙。櫻谷の色彩表現に迫る。

マットな
色彩



木島櫻谷《夏渓釣魚》
個人蔵
(後期展示)

たくみな差し色・アクセント



木島櫻谷《孔雀》
昭和4年(1929)頃
櫻谷文庫

対比する色彩



木島櫻谷
《春山行路》
昭和時代・20世紀
櫻谷文庫
(前期展示)



木島櫻谷
《雁来紅に猫》
大正～昭和時代・20世紀
櫻谷文庫
(後期展示)

§ 2：絵具が語る。大画面に見る櫻谷の彩色技法。

大阪・茶臼山の地に建てられた住友家本邸を飾るため、櫻谷が描いた四季連作屏風は、いずれも金地に濃彩で描かれた絢爛豪華な大画面作品。金地に厚く塗り重ねられた絵具は鮮やかに発色し、画面を彩るが、その色数は最低限に抑えられている。一方で、厚塗りの絵具には光の当たり具合によって陰影が生まれ、自然なグラデーションとともに立体感が醸し出されている。

西洋絵画や近代以降に新しく開発された絵具など、櫻谷はそれまでになかった技法などを積極的に取り入れ、独自の表現を追求した。本章では四季連作屏風を中心に、櫻谷が大画面作品で試みた彩色技法を時代ごとに紹介する。



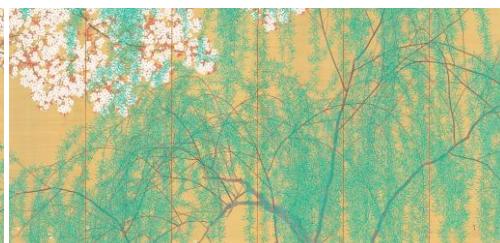
木島櫻谷《震威八荒図》
大正5年（1916）
泉屋博古館東京



木島櫻谷《竹林白鶴》
大正12年（1923）
泉屋博古館東京
(前期展示)



木島櫻谷《柳桜図》
大正6年（1917）
泉屋博古館東京
(前期展示)



木島櫻谷《燕子花図》
大正6年（1917）
泉屋博古館東京
(前期展示)



木島櫻谷《菊花図》
大正6年（1917）
泉屋博古館東京
(後期展示)



木島櫻谷《雪中梅花》
大正7年（1918）
泉屋博古館東京
(後期展示)



同時開催「住友財団助成による文化財修復成果—文化財よ、永遠に2026」

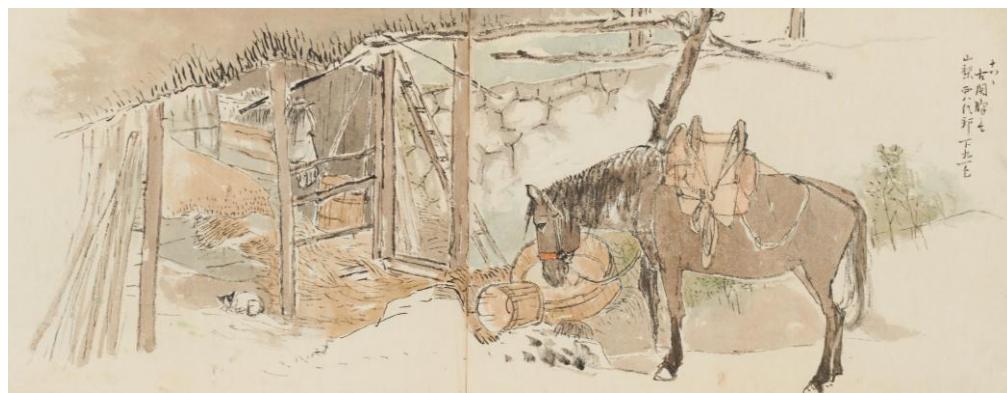
今に伝わる文化財は、その時代の修復や保存技術によって守られ、長い間の劣化や天災による損傷をくぐり抜けてきました。しかし、さらに長い時に耐え、次代に文化財を継承していくことは容易ではありません。今回の特集展示では、公益財団法人住友財団が推進してきた文化財修復助成により蘇った、櫻谷文庫所蔵の木島櫻谷の写生帖、崇禪寺が所蔵する此山妙在と夢窓国師の墨蹟2幅、さらに東慶寺が所蔵する《初音蒔絵火取母》を紹介します。

《夢窓国師墨蹟「果山」》は、美濃地方での禅宗普及のために招かれた夢窓国師が、崇禪寺の開山を祝して、住持の果山正位へと贈ったものです。また《此山妙在墨蹟》は、崇禪寺を訪れた此山妙在が、果山らのもてなしに感謝し認めたもので、いずれも崇禪寺の創建やそれにかかわった人々との交流を示す貴重な文化財です。

一方東慶寺が所蔵する《初音蒔絵火取母》は、木製の火取母の内に金属製の薰炉を収める構造が採られており、古代から中世にかけて使用された火取香炉のかたちを伝えるものとして貴重です。また、胴部には蒔絵で『源氏物語』の初音の巻に登場する和歌をふまえた意匠が施されており、同種のものとして本作はその嚆矢をなすものとしても貴重です。

本展ではこれら文化財の資料的価値を踏まえながら、文化財修復の意義とその成果について、修復道具なども交えながら紹介します。

前期展示：4月25日～5月31日



木島櫻谷 写生帖 『芙蓉集一』第23図（部分）
明治41年（1908） 櫻谷文庫蔵

後期展示：6月2日～7月5日



《此山妙在墨蹟》
康安2年（1362）
岐阜・崇禪寺（後期展示）



《夢窓国師墨蹟「果山」》
南北朝時代（14世紀）
岐阜・崇禪寺



重要文化財
《初音蒔絵火取母》
室町時代・15世紀
神奈川・東慶寺

《貸出可能画像・キャプション一覧》

片隻、片幅、部分図掲載の際は、
作品名の後に（右隻）等付記くださいますようお願いいたします



木島櫻谷《竹林白鶴》
大正12年（1923）
泉屋博古館東京
【前期展示】



木島櫻谷《燕子花図》
大正6年（1917）
泉屋博古館東京
【前期展示】



木島櫻谷《菊花図》
大正6年（1917）
泉屋博古館東京
【後期展示】



木島櫻谷《孔雀》
昭和4年（1929）頃
櫻谷文庫



木島櫻谷《幽渓秋色》
大正時代（20世紀）
泉屋博古館東京



木島櫻谷《廻》
昭和6年（1931）
櫻谷文庫



木島桜谷《震威八荒図》
大正5年（1916）
泉屋博古館東京



木島櫻谷
《葡萄栗鼠》
大正時代
泉屋博古館東京
(全図/部分図)



重要文化財
《初音蒔絵火取母》
室町時代・15世紀
神奈川・東慶寺
【後期展示】

画像ダウンロード（ARTPR）URL：<https://www.artpr.jp/senoku-tokyo/spotlightonokoku2026>

《お問い合わせ先》



泉屋博古館東京

QRコードはこちら▷▷

展覧会担当：野地耕一郎（泉屋博古館東京 館長）、田所泰（泉屋博古館東京 学芸員）

広報担当：橋本旦子 TEL: 03-3584-8136 FAX: 03-3584-8137 E-mail: pr-tokyo@sen-oku.or.jp



泉屋博古館東京

SEN-OKU HAKUKOKAN MUSEUM TOKYO